資料３

令和６年度モニタリングについて

１　概要・目的

提案書に基づく取組み内容を検証するため、県民会議委員によるモニタリングを実施する。

モニタリングで得られた成果は、当該事業のみならず、県民会議を構成する各団体の取組みに反映させることにより、バリアフリーの街づくりの推進に向けた取組の改善に資する。対象事例及び団体は県民会議で選出し、モニタリング実施後、直近の県民会議で結果を報告する。

２　過去のモニタリング実施記録

|  |  |
| --- | --- |
| 実施日 | 対象事例・対象団体 |
| 第１回  平成26年１月19日 | ユニバーサルデザイン親子体験講座2013  【神奈川県茅ヶ崎保健福祉事務所】 |
| 第２回  平成28年１月14日 | 視覚障害者への理解・啓発事業の実施（小中学校の総合学習への協力）  【ＮＰＯ法人神奈川県視覚障害者福祉協会】 |
| 第３回  平成28年９月27日 | 知的障害・発達障害者への理解・啓発事業の実施  【座間キャラバン隊】 |
| 第４回  平成30年２月23日 | 音楽活動による知的障がい者の就労支援  【特定非営利活動法人　Ｍｕｓｉｃ　ｏｆ　Ｍｉｎｄ】 |
| 第５回  平成31年３月22日 | ファンケルメイクセミナー  【株式会社ファンケル】 |
| 第６回  令和４年８月10日 | 多感覚で楽しむアート展「美術館まで（から）つづく道」  【公益財団法人茅ケ崎市文化・スポーツ振興財団　茅ケ崎市美術館】 |
| 第７回  令和５年９月14日  （交流教室①）  令和５年10月19日  （交流教室②）  令和５年11月16日  （市民部会教室） | 心のバリアフリー教室（茅ヶ崎市立鶴嶺小学校）  【茅ヶ崎市】 |

３　令和６年度の実施について

　各構成団体の取組事例や「提案内容の実践及び先進事例について」や「神奈川県バリアフリー街づくり賞」の受賞事例（参考資料３－１）等も参考にしつつ、モニタリング対象事例を選定する。

＜モニタリング先候補＞

　下記からテーマを選定し、事例を見に行く方向で相手先と調整したい。

※候補例であり、モニタリング実施が可能かどうかは現時点では未定である。

|  |
| --- |
| １「インクルーシブ遊具広場」について  …　「障害の有無に関わらず誰もが遊べるインクルーシブ遊具を備えた広場」の整備について、関係者に経緯や過程、気づき・成果や課題などを伺う。 |
| 【事例】  (1)「『こどもクリニックさいとう』みんなの広場」（平塚市）  場所の選定段階から障害関係団体、市内特別支援学校や幼稚園・保育園など116の団体に意見照会し、その後は対面ヒアリングや意見照会等を重ねて、令和５年３月にオープンした。  また、整備ポイントや考え方、遊具説明、検討過程の「あゆみ」をまとめ、ホームページ上で公開している。  ※令和５年度都市公園等コンクールで「日本公園緑地協会会長賞」受賞  (2)「小柴自然公園　みんなのあそびば」（横浜市）  令和５年９月にオープンした横浜市で初めてのインクルーシブ遊具広場で、整備にあたり、障害当事者、その支援者の団体、専門家、特別支援学校等から意見を聞きながら設計した。また、市民、関係団体、事業者、学識経験者などで構成する「横浜市福祉のまちづくり推進会議」にも意見聴取等を行った。 |
|  |
| ２「バリアフリービーチ」について  　…　海水近くまで車いすで移動できるマット等を活用し、誰もが海水浴を楽しむことができる取組について、関係者に経緯や過程、気づき・成果や課題などを伺う。 |
| 【事例】  (1) かながわバリアフリービーチin鎌倉（かながわバリアフリービーチ実行委員会）  鎌倉市の医療・福祉の関係者などでつくる実行委員会が主催。2015年から取組を開始し、新型コロナウイルスの影響で中止していた期間もあるが、沖縄県の同様の取組を視察したり、県や市の協力を得たりしながらサポート態勢を充実させ、継続的に取組を行っている。  ※平成30年度県バリアフリー街づくり賞受賞団体が現在実行委員会にも参加  (2) サザンビーチちがさき海水浴場（茅ヶ崎市）  　　令和５年に、県内初の常設でのバリアフリービーチを実施。バリアフリーマットの設置と水陸両用車いすの貸出し、海開き当日に水陸両用車椅子「モビチェア」の体験会などを行った。  （補足）鎌倉、藤沢、逗子の海水浴場は国際環境認証「ブルーフラッグ」取得しており、当該認証には、ビーチへの「身体障害者向けのアクセスと設備」等の項目がある。 |